

RESAS

を分析してみよう

栃木県
小山市

RESAS(地域経済分析システム)は、地域経済に関する様々なデータ(産業の強み、人の流れ、人口動態など)をグラフで分かりやすく「見える化(可視化)」したシステムです。データに基づいた地域の実情を把握・分析できるので、ぜひ参考に見てみてください。

人口

<https://resas.go.jp>

RESAS



年齢別人口推移

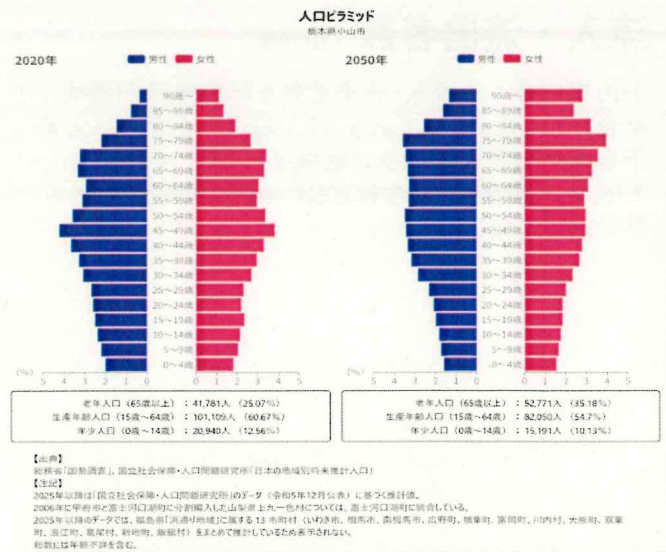
2020年の人口は総人口166,666人。10年前(2010年)の164,454人と比較すると1.3%増加しているが、2050年にかけては減少傾向が続く見込みである。また、年齢別に将来の傾向をみると、年少人口や生産年齢人口は減少傾向、老年人口は増加傾向にあり、老年人口割合が増加する傾向にある。よって、少子高齢化が進んでいく地域である。

※年少人口は15歳未満、生産年齢人口は15~64歳、老年人口は65歳以上をさす。

*人口マップ→人口構成分析→人口推移

人口ピラミッド

現在と将来の年齢別人口構成を示したグラフである。2050年の人口ピラミッドは「つぼ型」である。老年人口の割合をみると、2020年の25.07%から2050年には35.18%まで増加する。また、生産年齢人口は2020年の60.67%から54.7%まで減少する見込みである。



*人口マップ→人口構成分析→人口ピラミッド

人口

年齢階級別純移動数時系列分析

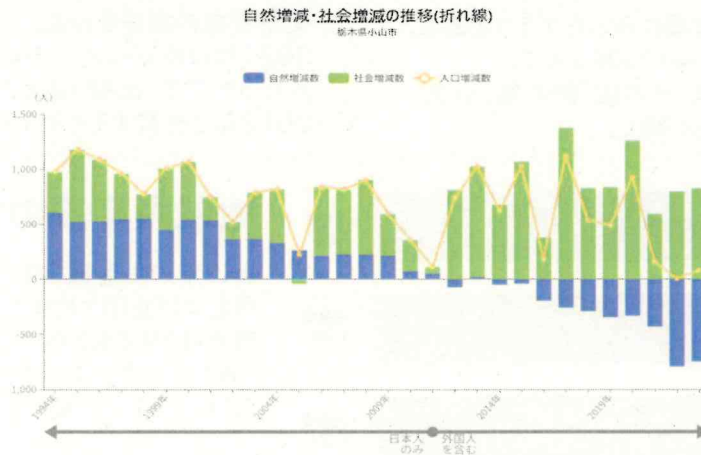
年齢階級別純移動数の時系列推移は、主に大学進学時(15~19歳→20~24歳)人口が流出する。その後、就職時(20~24歳→25~29歳)から婚姻時期頃(25~29歳→30~34歳)に人口が流入し、以降、中高年齢層にかけても若干移動はあるが、定住傾向地域であると考えられる。



*人口マップ→社会増減分析→人口移動

自然増減・社会増減の推移

自然増減数(出生数から死亡数を引いた値)と社会増減数(転入者数から転出者数を差し引いた数値)の推移を示したグラフである。1994年以降、社会増の傾向が強く、首都圏に近い交通利便性や工業・物流による雇用の機会、住宅価格と生活利便性のバランスなど、近隣市町と比べ、都市の構造的な競争力が高いことが要因として考えられる。

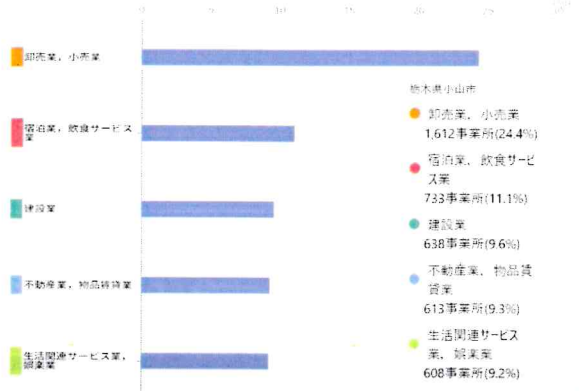


【出典】
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
【注記】
2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

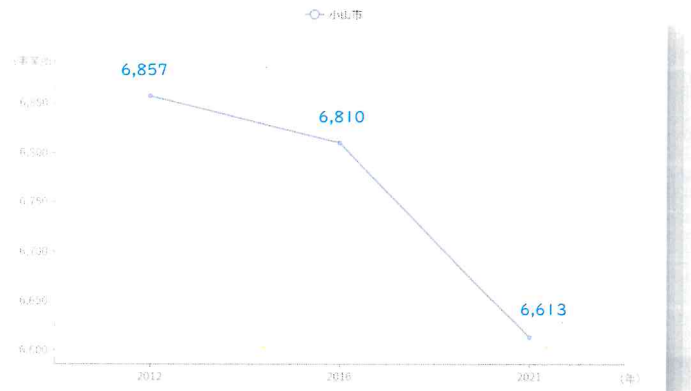
*人口マップ→人口増減分析→グラフ

産業構造

事業所数(事業所単位):6,613事業所



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(事業所数)



*産業構造マップ→産業構造分析→推移(事業所数)

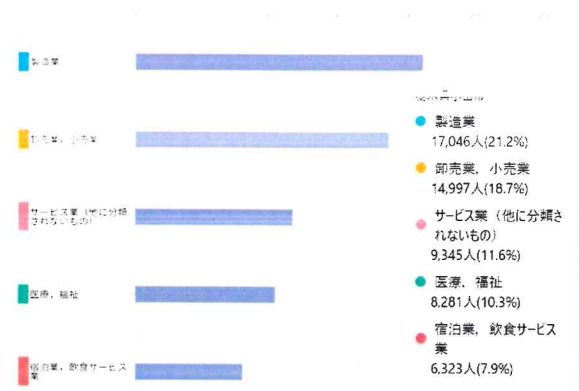
事業所数(事業所単位)大分類(2021年)

業種ごとの事業所数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「卸売業、小売業」の1,612事業所で、全体の24.4%を占めている。その後「宿泊業、飲食サービス業」の733事業所の11.1%が続く。

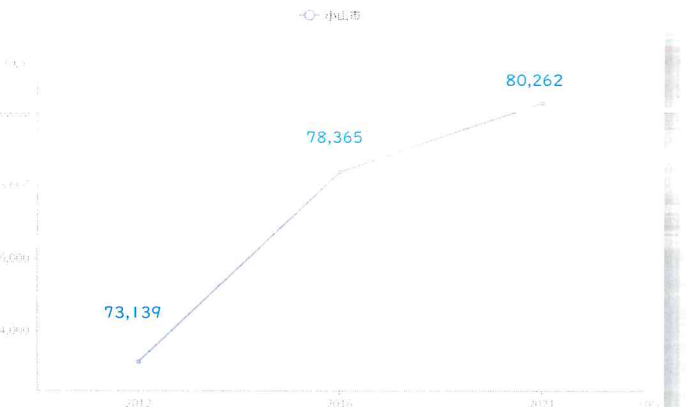
事業所数の推移(2021年)

事業所数の推移をみる。2021年は6,613事業所であり、5年前の2016年は6,810事業所だったので、比較すると2.9%減少している。

従業者数(事業所単位):80,262人



*産業構造マップ→産業構造分析→産業構成(従業者数)



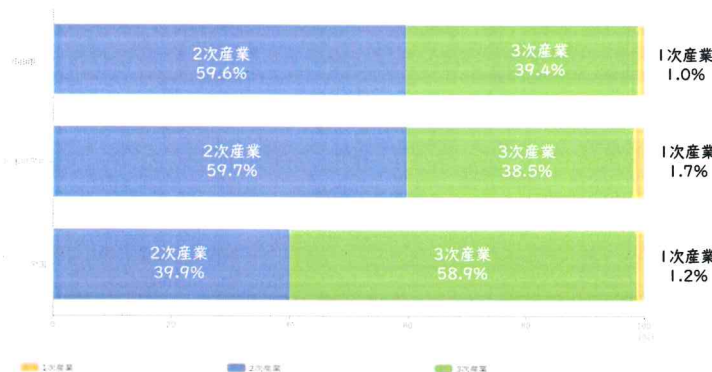
*産業構造マップ→産業構造分析→推移(従業者数)

従業者数(2021年)

業種ごとの従業者数を上位順に示したグラフである。もっとも多いのは「製造業」の17,046人で、全体の21.2%を占めている。その後「卸売業、小売業」の14,997人の18.7%が続く。

従業者数の推移(2021年)

従業者数の推移をみる。2021年は80,262人、5年前の2016年は78,365人だったので、比較すると2.4%増加している。また、2012年と比較すると9.7%増加している。



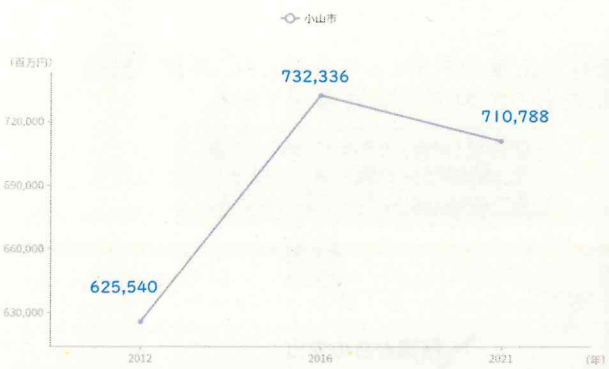
*地域経済循環マップ→生産分析→地域産業の構造

地域内産業の構成割合(2018年)

小山市の生産額を指標に産業の構成割合を栃木県および全国と比較したグラフである。2次産業の割合は59.6%と栃木県平均より0.1%低く、全国より高い。一方、3次産業の割合は栃木県平均より高く39.4%で、全国の平均と比べて低い。

*1次産業…農業、林業、漁業など
 *2次産業…製造業、建設業、工業など
 *3次産業…商業、金融業、医療・福祉・教育などのサービス業、
 外食産業・情報通信産業など

小売業・卸売業



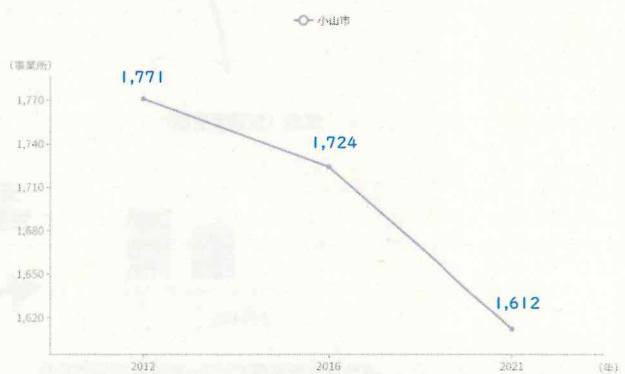
*産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は710,788百万円である。9年前の2012年と比較すると625.540百万円なので、13.6%増である。

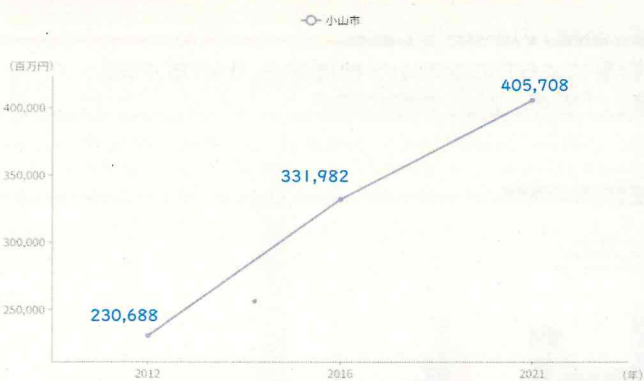
事業所数(小売業・卸売業)の推移 (2021年)

小売業・卸売業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は1,612事業所、2016年は1,724事業所であり、2016年と比較すると、6.5%減となっている。



*産業構造マップ→産業構造→推移

製造業



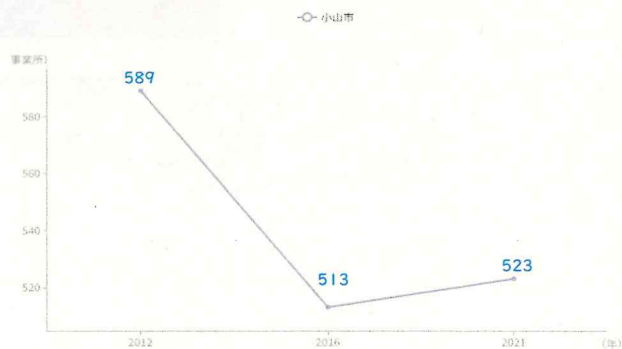
*産業構造マップ→産業構造→推移

売上高(製造業)の推移 (2021年)

製造業の売上高の推移を示したグラフである。2021年の売上高は、405,708百万円である。9年前の2012年と比較すると230,688百万円なので、75.9%増である。

事業所数(製造業)の推移 (2021年)

製造業の事業所数の推移を示したグラフである。2021年の事業所数は523事業所、2016年は513事業所であり、2016年と比較すると、1.9%増となっている。

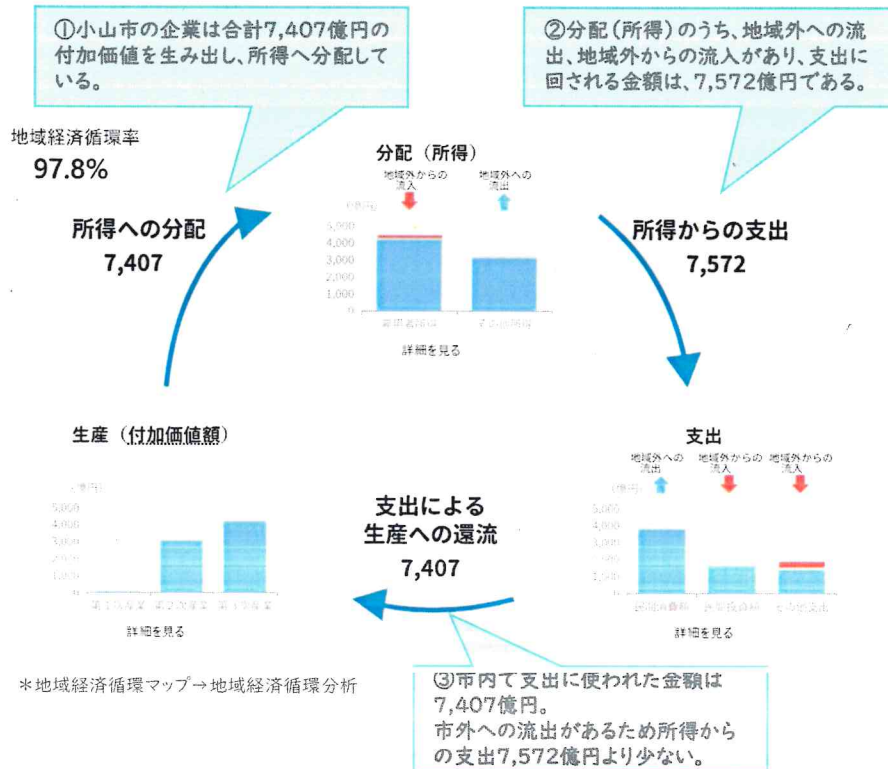


*産業構造マップ→産業構造→推移

地域経済循環

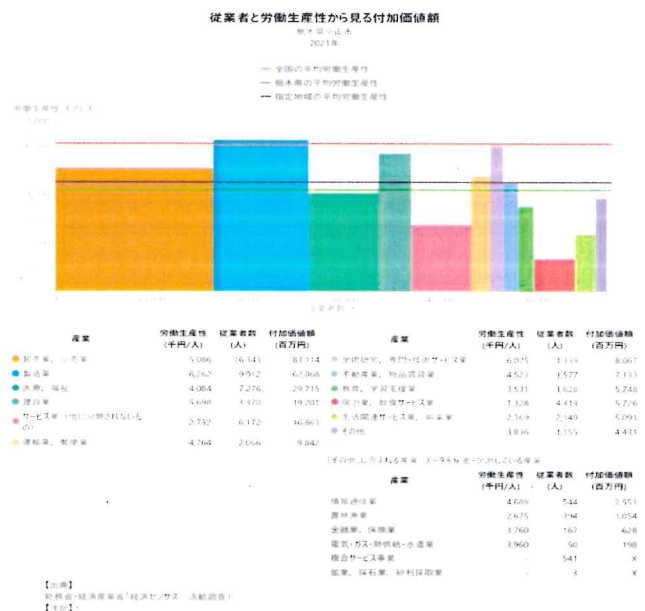
地域経済循環図 (2018年)

地域内企業の経済活動を通じて生産された付加価値は、労働者や企業の所得として分配され、消費や投資として支出されて、再び地域内企業に還流する。この流れを示したものが地域経済循環図である。



付加価値額の構造分析 (付加価値額順/2021年)

X軸に従業者数、Y軸に労働生産性で表される付加価値額(面積)のチャートである。付加価値額の要因が、労働生産性と従業者数のどちらの影響によるものなのかを把握する。小山市では、「卸売業、小売業」の付加価値額がもっとも大きく、「製造業」、「医療、福祉」の順に続く。



*地域産業マップ→産業構造分析→付加価値額の構造分析

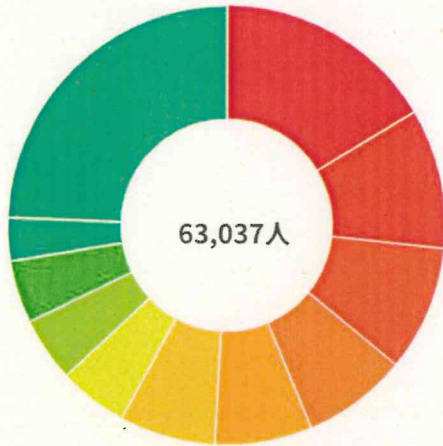
観光

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合（2024年）

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合を示したグラフである。東京都が16.36%と最も多く、栃木県の10.31%、神奈川県が9.24%が続く。

居住都道府県別の延べ宿泊者数（日本人）の構成割合

2024年 栃木県 小山市



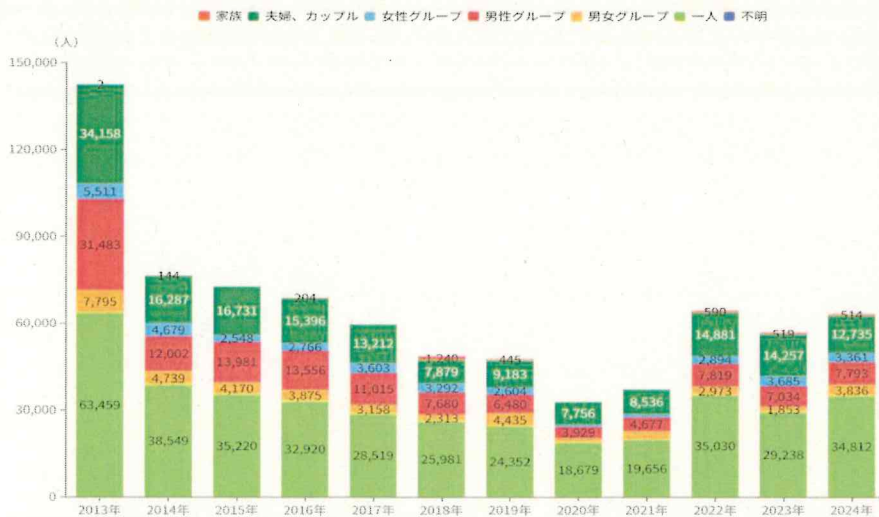
- 1位 東京都 10,314人 (16.36%)
- 2位 栃木県 6,501人 (10.31%)
- 3位 神奈川県 5,825人 (9.24%)
- 4位 埼玉県 4,883人 (7.75%)
- 5位 千葉県 4,536人 (7.20%)
- 6位 茨城県 4,462人 (7.08%)
- 7位 兵庫県 3,208人 (5.09%)
- 8位 愛知県 2,986人 (4.74%)
- 9位 大阪府 2,910人 (4.62%)
- 10位 群馬県 2,007人 (3.18%)
- その他 15,405人 (24.44%)

*観光マップ→宿泊者分析→居住別都道府県別

属性別の延べ宿泊者数（総数）の推移

延べ宿泊者数の推移を形態別に示したグラフである。

2024年では、もっとも多いのは、「一人」の34,812人、その後、「夫婦、カップル」の12,735人、「男性グループ」の7,793人と続く。



*観光マップ→宿泊者分析→属性別に見る

発行：小山商工会議所
 〒323-0807 栃木県小山市城東1-6-36
 TEL: 0285-22-0253 FAX: 0285-22-0245
 URL: <https://www.oyama-cci.or.jp>

